



母と娘の舞台。創作舞踊とクラリネット演奏のコラボレーション

「娘の大ファンです！」  
創作舞踊家大谷けい子さんは、国際舞台で活躍するスイス在住のクラリネット奏者大谷淳子さんの美しい音色に魅了される。舞踊家と音楽家母娘のアート・ライフを代々木（東京都渋谷区）の大谷けい子さんの主宰するスタジオOKを訪ね、帰国早々の大谷淳子さんと共にお話を伺った。

「三歳から日本舞踊をはじめ、日舞、クラシックバレエ、モダンダンス、中国舞踊など踊りつづけ、世界的な舞踊芸術家イサドラ・ダンカンのような舞踊家をめざしがんばっています。日本舞踊は花柳流です」「スイスから淳子が祖母のお見舞いに帰国しました。彼女は祖母の大好きなモーツァルトやオペラのマリアを演奏しました。九十歳の母は目をキラキラさせて淳子のクラリネット



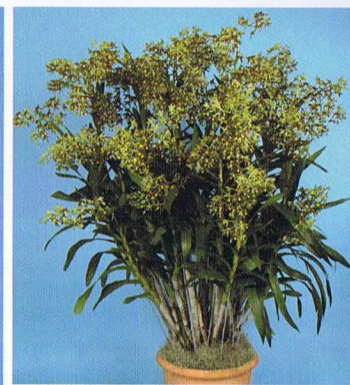
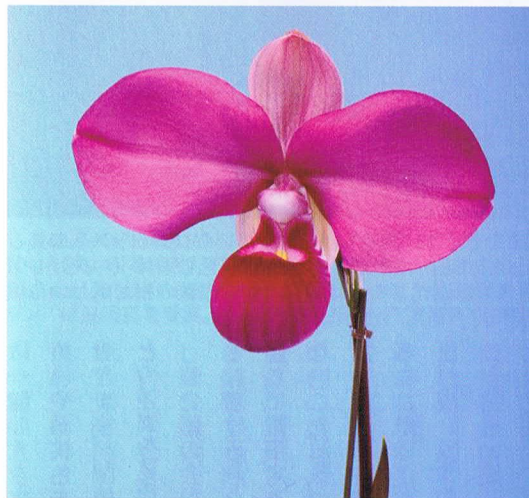
音楽家クラリネット奏者 大谷 淳子  
舞踊家 大谷けい子

## 母と娘のアート・ライフ 創作舞踊とクラリネット



### 【世界らん展日本大賞 2013】

本誌執筆の斉藤正博さんは、日本大賞・優秀賞・奨励賞受賞の快挙、大塚初枝さんは優良賞、中島文子さんはトロフィー賞を受賞。



2013年2月、東京ドームで開催された「世界らん展日本大賞 2013」。本誌執筆の斉藤正博さんの *Phrag. kovachii* 'Second Smile' フラグミベディウム・コバチー 'セカンド スマイル' (左中) が日本大賞 (最優秀賞) を受賞、*C. trianae* 'Okada' カトレア・トリアネ 'オカダ' (左下) は優秀賞に、*Paph. Norito Hasegawa* 'Yoko's Smile' パフィオペディルム・ノリト ハセガワ 'ヨウコズ スマイル' は奨励賞を受賞した (左上段)。昨年紹介した大塚初枝さんは *Aslla. africana* 'John Hope Franklin' アンセリア・アフリカーナ 'ジョン ホープ フランクリン' (右上) で優良賞に、中島文子さんの *Trt. splendidum* 'FN-Beat' トリコセントラム・スプレディダム 'エフエヌ - ビート' (右下) はトロフィー賞に輝いた。

写真提供：世界らん展事務局





ベード・マスト、大谷淳子夫妻のモーツァルト・コンチェルト演奏会。ポートレート

ていました。国立音楽大学在学2年のときにフランスの音楽家に憧れ、フランスにわたり日本とヨーロッパを往き来し15年、現在はスイス人の音楽家と結婚してスイスに住んでいます」

世界を舞台にクラリネット演奏

「日本には一年に一、二度仕事で帰国します。今回は祖母のお見舞いに帰国しました。わたしの住んでいるスイスのビル・ビエンヌはジュラ山脈の南側にある時計メーカーのロレックス、オメガ、レド、スウォッチなどの時計産業の中心地として知られ、ドイツ語とフランス語の二カ国語の併用が法律で定められている古い中世の面影の残る街です。街の人の音楽の受け入れ方は、市民が音楽を育てるという意識が高く、したがって音楽家の地位も高く、音楽家を自宅に招くなど、音楽のある生活を楽しまれています。また、街の方から「禅の空間」のお話もするほど日本文化に関心が高く、私も実は、ヨーロッパに住んでから、あらためて日本の文化や美に目覚め着物を着たり、茶道を習い始めました。コンサートは、東京と軽井沢で予定しています」

大谷さんはスイス人の音楽家ベード・マスト氏 (Beda Mast) フルート奏者・指揮者) と結婚、スイスに在住する。地元ビル・ビエンヌ紙は日本人のクラリネット奏者を紹介する。

シャンソン歌手石井好子さんは大谷淳子さんのCDデビューに際し、生前に次のような推薦文を寄せている。



左から、シェイクスピア「夏の夜の夢」、平家物語「祇園精舎」、源氏物語「六条御息所」

トの美しい音色に聴き入っていました。母は音楽の力に元気をいただいたようです」と語る大谷けい子さん。

大谷けい子さんの母大谷正子さんはホテルニューオータニの創立者大谷米太郎氏を継いで二代目社長となった大谷米一氏夫人。現社長大谷和彦氏はけい子さんの兄。

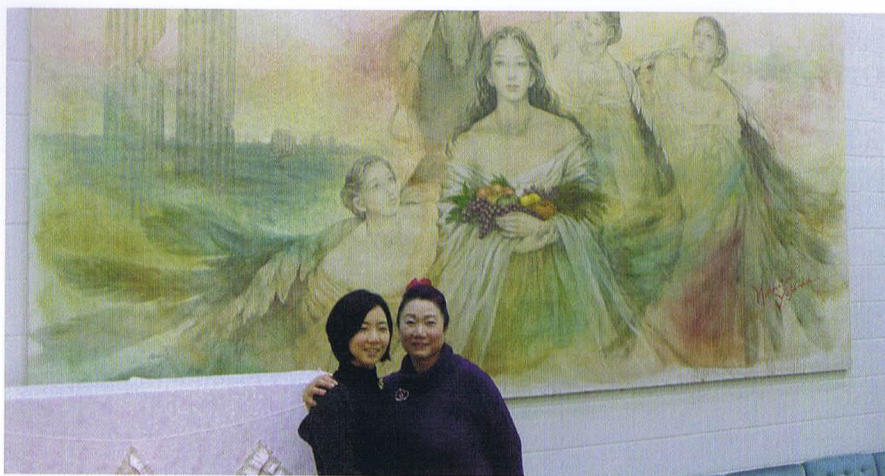
舞踊美を追究する創作舞踊

「私の創作舞踊は古事記や日本の古典文学、シェイクスピア作品、モーツァルトやショパンなどから題材を得て自由なイメージで踊ります。身体表現の世界ですから身体を鍛えねばとかつて、シャンソン歌手の石井好子さんと一緒に木原光知子さんのスイミングクラブで木原さんのレッスンをうけました。水中の動きは踊りの身体づくりに効果的で現在も水泳をつづけています。大学(玉川大学)時代は演劇専攻でパフォーミング・アーツを学びました。三歳の日本舞踊の初舞台は渋谷の東横劇場でした(今はもうありませんが)」

例年6月、四谷区民ホールで開催される新宿芸術家協会公演に出演、観客は華麗な創作舞踊に酔いしれる。また、氣と舞踊の融合による風仙功舞踊学院を立ち上げ、中国の創作・伝統・民族舞踊の普及に尽力、北京市舞踊家協会団名譽會員に推挙される。

「淳子は小さいときから祖母とオペラを観てきた音楽好きな娘で、中学(玉川学園)では吹奏楽部に入り、クラリネットを吹い





「スタジオK」にて。絵画は吉田三千代さんの「空と大地と」

■大谷けい子さんのプロフィール  
スタジオK主宰。三歳より日本舞踊、クラシックバレエを習い始め、イサドラ・ダンカン・ダンスを継承者ミニヨン・ガーランド、メアリー佐野に、鳳仙功舞踊を創始者大鳳真陽、中国古典・民族舞踊を閻仲珩に師事。北京市舞踊家協会名誉会員。新宿芸術協会会員。舞踊作家協会会員。独自の創作舞踊を、ダンス・ネオ・シノワーズと名付け、創作活動を行っている。

年日本ヤングクラリネットコンクール第一位、その他、スイス、フランス、日本の数々のコンクールにて上位入賞。また、ソリストとして東京交響楽団、東京シティ・フィルとの共演、バドヴィン・スルツァー氏のクラリネット協奏曲初演をはじめ、日本、スイス、オーストリア、チェコで数々のコンチエルトを演奏する。2003年東京文化会館小ホールでソロデビューリサイタルを皮切りに、定期的に日本にてソロ・室内楽のコンサートを行う。スイスのビル・ビエンヌシンフォニー管弦楽団、ベルゲン・フィルハーモニー管弦楽団で首席クラリネット奏者を務め、現在スイス在住。また、音楽活動の傍ら、チューリッヒにて、音楽家に大切な身体の使い方について学ぶアレキサンダー・テクニクの教師の資格を取得。スイスの女性誌はクラリネットとアレキサンダー・テクニクの大谷さん特集する。

## Junko Otani Mast – Klarinettenistin und Lehrerin für Alexander Technik

Junko Otani Mast hat einen interessanten, wenn auch äusserst abwegigen Ist sie denn würdig, in FRAUEN eine noch nicht vorweisen k der Schweiz oder im nahen A

Wer Junko begegnet, merkt

vorliegend Sie erzählt in der R

konstanz

Musikanten

2004

大谷淳子

パトリック・ジグマン

クラリネット

Patrick Zygmanski

Patrick Zygmanski

Patrick Zygmanski

Patrick Zygmanski

Patrick Zygmanski

Patrick Zygmanski

Patrick Zygmanski

Patrick Zygmanski

Patrick Zygmanski

Patrick Zygmanski

Patrick Zygmanski

Patrick Zygmanski

Patrick Zygmanski

Patrick Zygmanski

Patrick Zygmanski

Patrick Zygmanski

Patrick Zygmanski

Patrick Zygmanski

Patrick Zygmanski

Patrick Zygmanski

Patrick Zygmanski

Patrick Zygmanski

Patrick Zygmanski

Patrick Zygmanski

Patrick Zygmanski

Patrick Zygmanski

Patrick Zygmanski

Patrick Zygmanski

Patrick Zygmanski

Patrick Zygmanski

Patrick Zygmanski

Patrick Zygmanski

Patrick Zygmanski

Patrick Zygmanski

Patrick Zygmanski

Patrick Zygmanski

Patrick Zygmanski

Patrick Zygmanski

Patrick Zygmanski

Patrick Zygmanski

Patrick Zygmanski

Patrick Zygmanski

Patrick Zygmanski

Patrick Zygmanski

Patrick Zygmanski

Patrick Zygmanski

Patrick Zygmanski

Patrick Zygmanski

Patrick Zygmanski

Patrick Zygmanski

Patrick Zygmanski

Patrick Zygmanski

Patrick Zygmanski

Patrick Zygmanski

Patrick Zygmanski

Patrick Zygmanski

Patrick Zygmanski

Patrick Zygmanski

Patrick Zygmanski

Patrick Zygmanski



C Dとスイスの女性誌「FRAUEN leben」掲載記事。家族会でベード・マストさんと

「大谷淳子さんは色白、一重まぶた、日本女性代表のような美しい女性です。良家の子女だということも、一目でわかります。そのしとやかな淳子さんが、国際的に堂々と大活躍しているクラリネット奏者であると知ったら驚かれる方が多いでしょう。淳子さんは1999年日本ヤングクラリネットコンクールで一位入賞、その後日本をはじめスイス、フランス、イタリアにおいても数々のコンクールで上位入賞を果たし、2003年からは日本、ヨーロッパで定期的に活動されている稀にみる経歴の持ち主である。淳子ちゃん淳子ちゃんと私は親しげに呼んでおりますが、CD『メ・ファヴオリ〜わたしのお気に入り』の名演奏を聴いている時は頭が下がります。淳子さんのこのCDを皆様も感動をもって聴いて下さることを信じてご推薦申し上げます」

## ■大谷淳子さんのプロフィール

1999年1月、国立音楽大学在学中に渡欧。パリ・ポールデュカ音楽院でミッシェル・アリニョン氏に学び、2001年よりジュネーヴ高等音楽院で故トーマス・フリードリ氏のもとで更に研鑽を積み、ソリスト資格とオーケストラ音楽家資格を得た後、フリードリ氏のアシスタントを務める。ほか、佐川聖二、生島繁アレックスサンドロ・カルボナーレ、ローマン・ギユイオ各氏に師事。2004年、Marco Florindo 国際コンクール第一位、1999



季刊 Quarterly Friendly Magazine

# にぎやか談話室

2013 春 No37

